

徳島大学・名城大学 GP 関連合同シンポジウム開催のご案内

このたび、徳島大学と名城大学が共同で「医療現場と連携した新しい薬剤師養成教育を目指して」というテーマで GP 関連合同シンポジウムを下記の要領で開催致しますのでご案内申し上げます。

徳島大学薬学部と名城大学薬学部はそれぞれ文部科学省の平成 18 年度「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」(医療人 GP)、および平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」(特色 GP) に採択され、徳島大学薬学部は「医療の現場と直結した薬剤師養成教育の実践」、名城大学薬学部は「医学教育との連携による臨床薬剤師教育」というテーマに対し日々取り組んでいるところです。

本シンポジウムでは前半で今回の GP での取り組みやこれまでの成果を発表し、後半では総合討論の形式で、フロアからの発言も求めて医療人としての薬剤師養成に関する情報交換の場を提供することを目的に開催いたします。

本シンポジウムでは特別講演者として、文部科学省から薬学教育専門官の松谷 治様をお招きし、ご講演をして頂くこととなりました。また、米国アラバマ州サンフォード大学薬学部 (Samford University, McWhorter School of Pharmacy) のロバート・ヘンダーソン先生 (Professor Robert P. Henderson) を招聘し、米国における薬学教育と薬剤師の役割についてお話しいただく予定です。

ご関心のある方は、どうぞ奮ってご参加下さい。参加費は無料です。

<プログラム>

| 日時 | 平成 19 年 7 月 13 日 (金) 13:00~17:35 | |
|-------------|--|--|
| 場所 | 徳島大学長井記念ホール 徳島市庄町 1 丁目 78 番地の 1 (蔵本キャンパス・徳島大学薬学部構内) (下図参照) | |
| プログラム | 13:00-13:15 | 開会の挨拶 徳島大学学長 青野敏博 名城大学薬学部学部長 岡田邦輔 |
| | 13:15-13:35 | 招待講演 (座長: 徳島大学教授 木原 勝) 「薬学教育への期待」 文部科学省薬学教育専門官 松谷 治 |
| | 13:35-14:05 | 基調講演 (座長: 徳島大学教授 木原 勝) 「薬学 6 年制教育のはじまり」 徳島大学教授 滝口祥令 「職能教育のあるべき姿」 名城大学教授 松葉和久 |
| | | シンポジウム (座長: 徳島大学教授 木原 勝、名城大学教授 西田幹夫) |
| | 14:05-14:45 | 「医療現場と直結した薬剤師養成教育を開始して」 徳島大学教授 土屋浩一郎 |
| | 14:45-15:25 | 「臨床医からみた薬剤師への期待」 名城大学教授 平野正美 |
| | 15:25-15:40 | 休 憩 |
| | 15:40-16:10 | 「臨床現場で学生は何を学んだか」 名城大学大学院修了生 加藤隆寛 |
| | 16:10-16:40 | 「Roles of Clinical Preceptor in U.S.」 Samford Univ. Dr. R.P.Henderson |
| | 16:40-17:30 | 総合討論 (司会: 徳島大学薬学部学部長 高石喜久) |
| 17:30-17:35 | 閉会の挨拶 徳島大学副学長 川上 博 | |
| 18:00-19:00 | 意見交換会 (会場: 薬学部スタジオプラザ) | |

<参加申し込み>

参加費：無料

意見交換会：3,000円

下記の FAX または電子メールで、平成 19 年 7 月 6 日 (金) までにお申し込み下さい。

なお、お申し込みの際には、

- ▶ お名前
- ▶ ご住所
- ▶ ご職業 (勤務先)
- ▶ 連絡先 (電話番号または電子メールアドレス)
- ▶ 意見交換会への出欠

をご連絡下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

<お問い合わせ・お申し込み先>

徳島大学薬学 GP 担当 菊石美也子

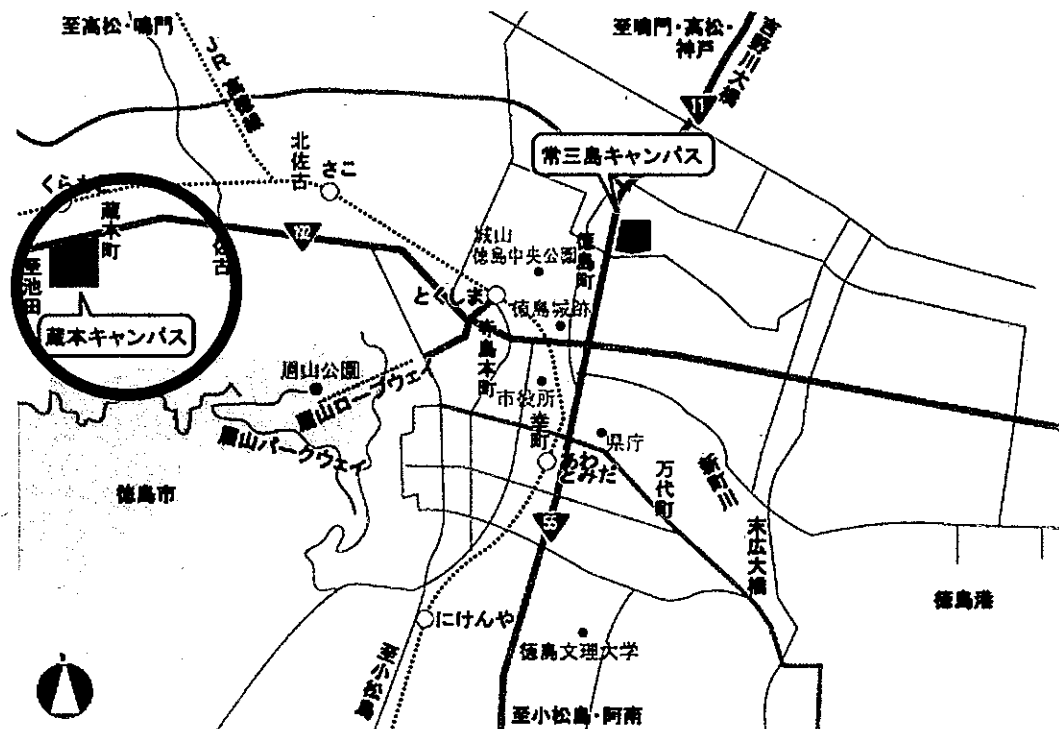
電話：088-633-7835 (直通)

FAX：088-633-7825

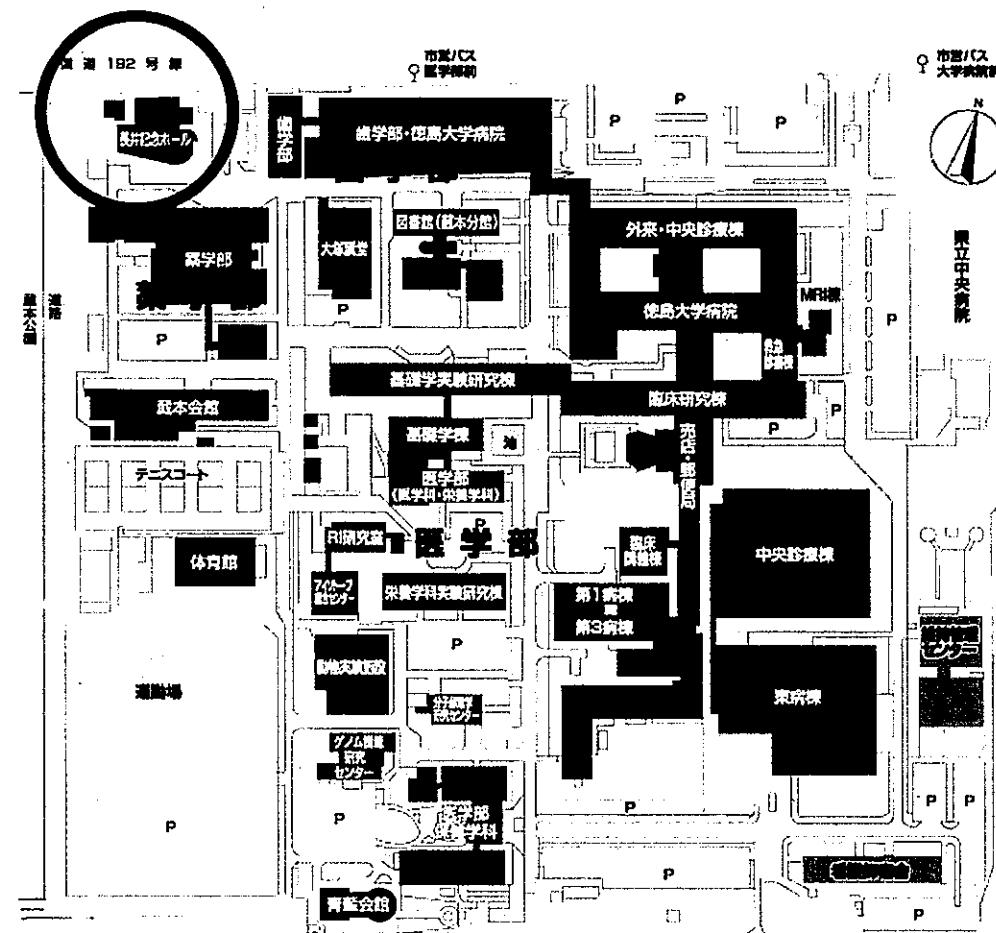
E-mail：yakugaku-gp@ph.tokushima-u.ac.jp

URL：http://www.ph.tokushima-u.ac.jp/?&rf=750

<場所・交通機関>



徳島駅と蔵本キャンパスの位置関係



蔵本キャンパスと長井記念ホールの場所

■航空機利用の場合

東京 約1時間10分 → 徳島空港 バス約30分 → JR 徳島駅
 名古屋 約1時間 → 徳島空港 バス約30分 → JR 徳島駅
 福岡 約1時間30分 → 徳島空港 バス約30分 → JR 徳島駅

■鉄道利用の場合

JR 岡山駅 瀬戸大橋経由 約1時間 → JR 高松駅 高徳線 → 約1時間10分 → JR 徳島駅

■バス利用の場合

京都・神戸・大阪・関西空港方面 → 明石海峡大橋・淡路島経由 → 約1時間50分～2時間50分 → JR 徳島駅

東京 → 約8時間40分 (浜松町経由) → JR 徳島駅

高松・松山・高知 → 約2時間～3時間 → JR 徳島駅

○ JR 徳島駅から医学部・歯学部・薬学部まで・・・約4km

循環バス (右回り、所要時間約15分) 「中央病院大学病院前」下車 徒歩約3分
 タクシー利用の場合、所要時間約10分 (1,100円程度)

臨床薬学講座3分野の教育・研究・診療支援概要

臨床薬物動態学分野 ●有効で安全性に優れた薬物療法の確立を目標とする

I 教育：講義内容

- ・薬の作用と生体内運命(先端医療薬学1) ・薬物動態の解析(基礎医療薬学5)
- ・病態生理解析に基づく薬物療法戦略(臨床薬物動態学)

II 研究

- ・医薬品の吸収、分布、代謝、排泄などの体内動態に関する要因の解明
- ・病態生理と薬物効果の相関に関する要因の解明
- ・薬物代謝酵素、遺伝子研究(またはそれらに基づくファーマコゲノミクス)

III 診療「薬物動態・代謝研究センター」

- ・体内薬物動態情報解析に基づく医薬品の適正使用
- ・薬物治療管理(TDM:therapeutic drug monitoring)
- ・患者個人に対する適正薬物療法の設計(テーラーメイド医療への対応)

医薬品情報学分野 ●医薬品の有効性、相互作用、副作用、毒性等に関する情報を収集、整理し、医薬品の適正使用を促進させることを目的とする

I 教育：講義内容

- ・医薬品情報、患者情報(医薬品情報学1) ・テーラーメイド薬物治療を目指して(医薬品情報学2)
- ・バイオスタティクス(医薬品開発論3)

II 研究

- ・医薬品安全情報の収集と整理
- ・医薬品の安全性に関する双方向性情報コミュニケーションシステムの構築

III 診療「医薬情報センター」

- ・EBMに基づく医薬品情報の提供と処方監査
- ・リスクマネジメントと医薬品によるヒヤリハットの防止
- ・副作用に関する患者さんからの問い合わせ対応と適切な情報の提供

医薬品機能解析学分野 ●病気の予防、治療に有効な薬物標的分子の解明を行い、適切な医薬品の開発と安全使用を目標とする

I 教育：講義内容

- ・疾患と薬物治療(先端医療薬学2) ・治験(医薬品開発論2) ・統合医療(統合医療)

II 研究

- ・人の臓器と病態、薬物の作用の解明 ・トランスレーショナル・リサーチ(探索的臨床研究)
- ・漢方薬・未検証医薬品の有効性に関する研究

III 診療への寄与

- ・患者個人に対する薬物療法の設計並びに治験への関与
- ・専門薬剤師の育成を通じ医療に貢献
- ・代替医療情報提供ならびに医療関係者へのアドバイス

〒770-8505

徳島県徳島市庄町1-78番地 徳島大学薬学部

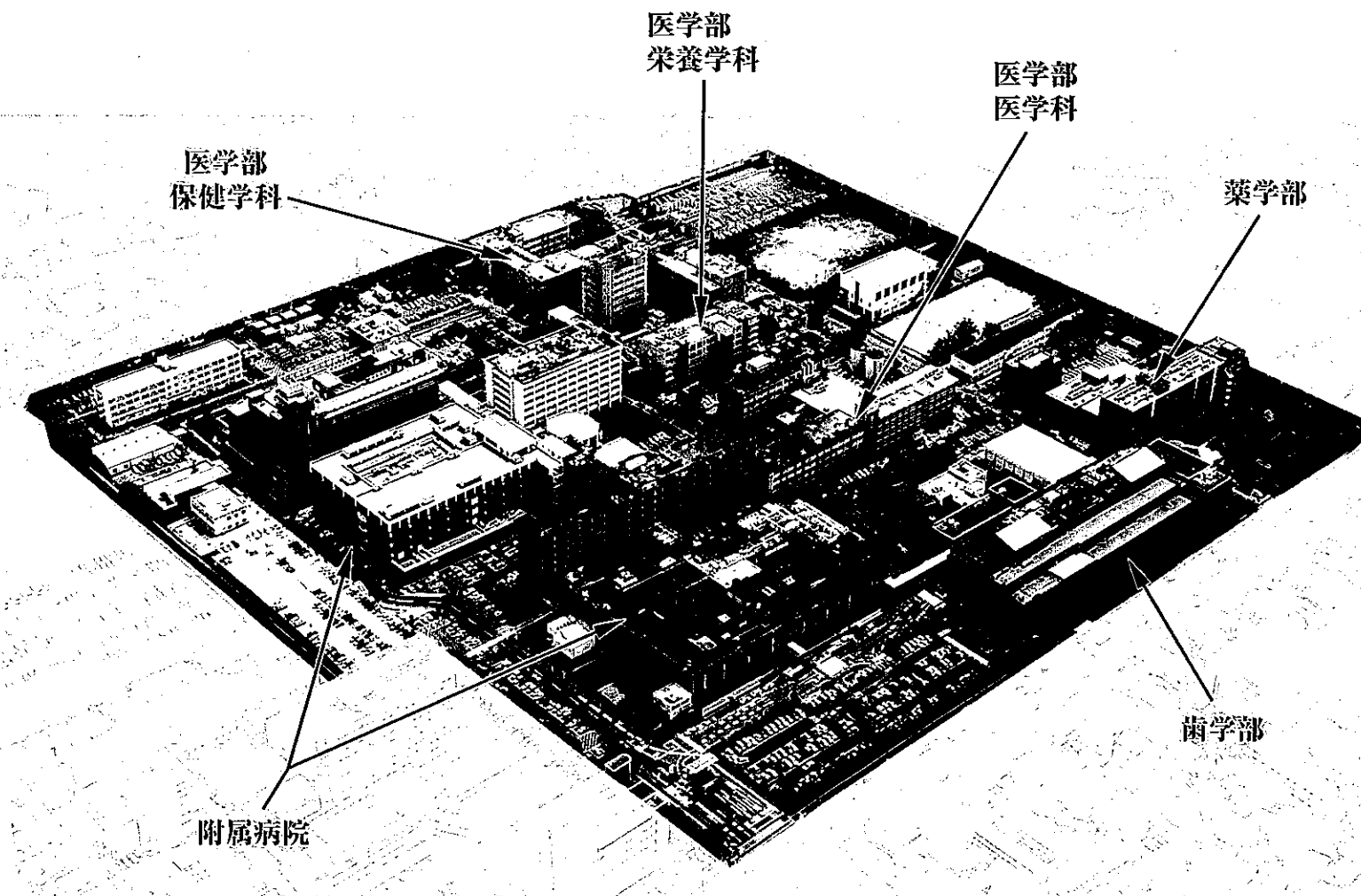
電話：088-633-7245(代表) FAX：088-633-9517

URL：http://www.ph.tokushima-u.ac.jp

「地域医療等社会的ニーズに対応した 質の高い医療人養成推進プログラム」

テーマ2「臨床能力向上に向けた薬剤師の養成」選定取組

『医療の現場と直結した薬剤師養成教育の実践』



(医療教育機関の揃った徳島大学蔵本地区)

徳島大学蔵本キャンパスを医療薬学教育研究のモデルへ!



徳島大学薬学部

取組の目標

「モノとしての薬が分かる薬剤師」にとどまらず、 「患者さんのところが分かり、問題解決能力のある薬の専門家」を養成する

これまでの薬剤師教育の問題点

- I) 国民(患者さん)のニーズに十分に答えられない薬剤師養成教育であった。
- II) 医療の現場を持たずに薬剤師養成教育が進められていた。
- III) めまぐるしく進歩する医療への対応が不十分であった。
- IV) 薬剤師養成教育が一部の教員に依存したシステムとなっていた。

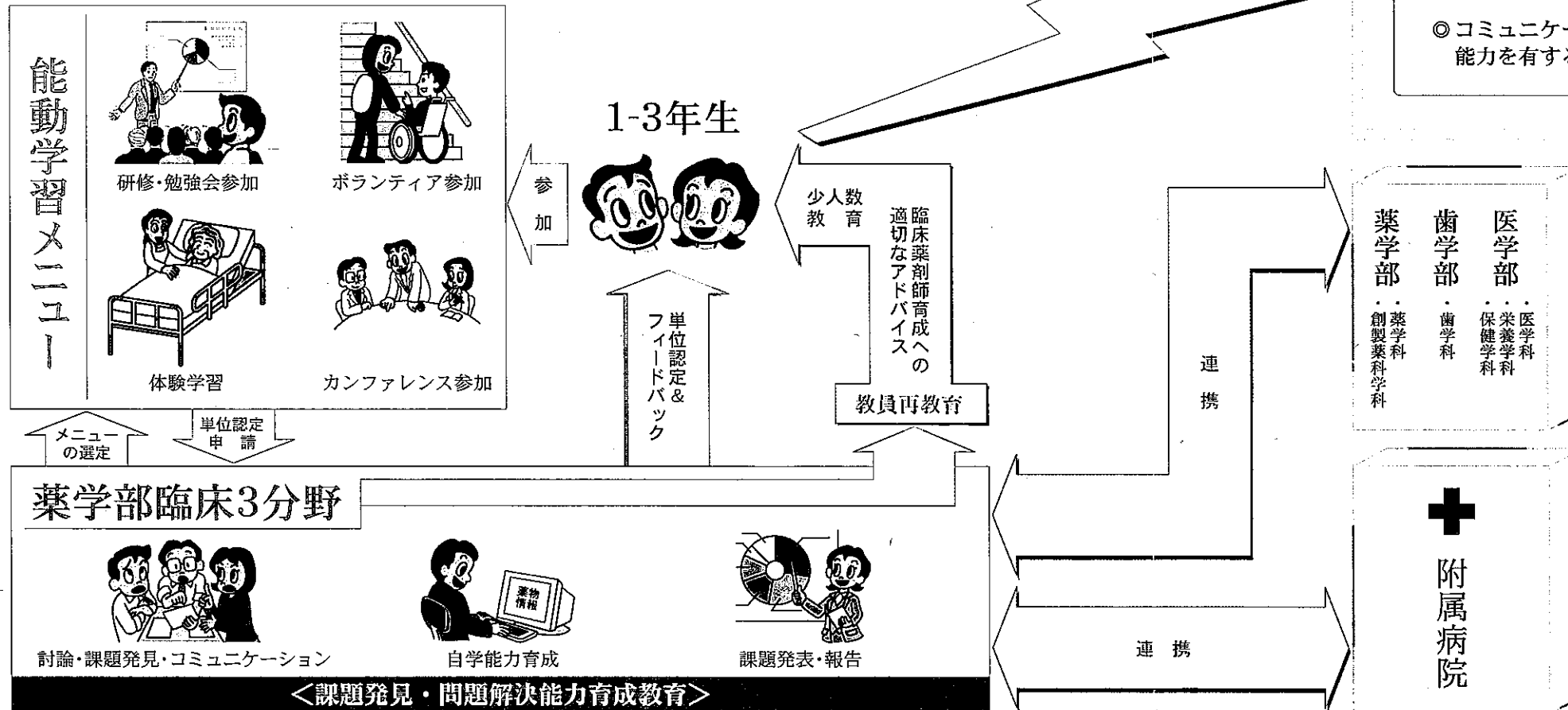
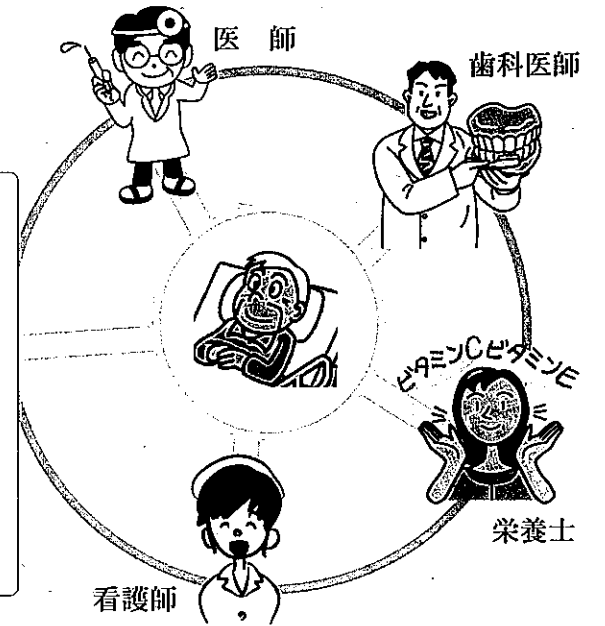
具体的な取組

- I) 医療現場と連携した教育システムを構築するため臨床薬学講座3分野を附属病院と連携して設置し、教育、研究および診療支援を行う。
- II) 能動学習制度を導入し、参加型自学自習学習に変える。
- III) 少人数教育を進め、課題発見問題解決能力を育成する。
- IV) 患者さんのニーズを自覚させるため、医療入門(チーム医療)科目を開講する。
- V) 教員再教育システムを導入し、薬剤師養成教育の充実・教員の意識改革を進める。

患者中心の全人的医療

社会が求める薬剤師

- ◎ 薬物療法のアドバイスができる
- ◎ 課題発見能力・問題解決能力を有する
- ◎ 自学自習意欲を持つ
- ◎ コミュニケーション能力を有する



| 教育目標 | 臨床薬剤師への動機づけ・実学基礎・臨床科目の基礎固め・臨床薬剤師としての総合力の育成 | | |
|--|--|---|---|
| | 参加型自学自習学習 課題発見・問題解決能力 (入門編) | コミュニケーション能力の育成 課題発見・問題解決能力 (応用編) | コミュニケーション能力の醸成 課題発見・問題解決能力 (臨床・研究編) |
| 臨床薬学教育科目群：臨床薬学講座(3分野)が企画・統括 ・早期体験学習・能動学習・薬学セミナー・臨床技能演習・実務実習 | チーム医療(入門) | チーム医療(臨床) | |
| 授業科目群 | 医療系学部共通科目群 ・医療入門(チーム医療)・解剖学・病理学・生理学 | 医療人専門教育科目群：医学部・歯学部 ・合同カンファレンス・疾病学 ・医薬品経済学・統合医療 | |
| | 大学入門科目群 ・教養科目群 ・基盤形成科目群 ・基礎科目群 | 薬学入門3(少人数教育) ・有機化学 ・分析化学 ・物理化学 ・生物化学 ・製剤学 ・基礎医療薬学 | |
| 教養教育：全学共通教育センター | 卒業研究 | 薬学専門科目群：薬学部 ・薬物治療学 ・天然医薬品学 ・薬学英語 ・衛生薬学 ・専門基礎実習 ・先端医療薬学 ・医薬品安全学 | |
| 学年 | 1年～3年 | 4年～6年 | |
| 教員 | 薬剤師教育に関する質の向上 | 実務実習教育に関する質の向上 | |
| | 企画・実施・評価：臨床薬学講座・教務委員会・評価委員会 ・集合研修 ・自己研修 ・大学院病院実務実習への教員の直接参画 | 臨床研修 ・海外研修 ・薬学教員による実務実習 | |

能動学習制度

※単位は、集合研修・自己研修で得られたポイントを基に、教員による試問、レポートの評価等により認定する。

- ポイント制度を導入する
- 該当する能動学習メニューは、臨床薬学講座があらかじめ選定
- 単位の認定※は、臨床薬学講座が行う

教員の再教育制度

※一定以上のポイントを獲得した教員を、スキルアップ教員と認定し、教員委嘱評価にも反映させる

- 薬剤師養成教育の向上を図ることを目的とする
- 企画立案認定は、臨床薬学講座が担当
- 教員の医療薬学に関するスキルアップを図る
- ポイント制度を導入する※

集合研修

- 徳島大学臨床薬剤師交流ネットワーク
- 徳島県薬剤師会研修会
- 徳島県病院薬剤師会研修会
- その他、学内外の研修会・学術講演会・シンポジウム・セミナー等

○90分で1ポイント
○20ポイントで「演習」1単位とする

自己研修

- 病院薬剤師受託実習生
- 病院ボランティア
- その他のボランティア活動
- 体験学習(看護体験、介護体験等)

○基準は1日(実働8時間程度)で1ポイント
○20ポイントで「演習」1単位とする

集合研修

- 教員による専門分野の講義
- ・1講義約2時間
- ・午後6時以降または休日等勤務時間外開講

○1時間出席で1ポイント

自己研修

- 医療薬学関連学会
- 薬剤師会研修会
- 病院薬剤師会研修会等に参加

○90分参加で1ポイント

臨床研修

- 附属病院薬剤部、調剤薬局等で実務研修を受ける

○教員の研修制度の一環で実施する

海外研修

- 欧米の病院や薬学部で研修を受ける

○教員の研修制度の一環で実施する



徳島大学・医療人GP



名城大学・特色GP 合同シンポジウム

医療現場と連携した 新しい薬剤師養成教育 を目指して

日時：平成19年7月13日(金) 13:00-17:35

場所：徳島大学長井記念ホール

徳島市庄町1丁目78番地の1 (徳島大学薬学部構内)



プログラム

参加費
無料*

開会の挨拶 青野敏博 (徳島大学学長)
岡田邦輔 (名城大学薬学部学部長)

招待講演 薬学教育への期待 松谷 治 (文部科学省薬学教育専門官)

基調講演 薬学6年制教育のはじまり 滝口祥令 (徳島大学)
職能教育のあるべき姿 松葉和久 (名城大学)

シンポジウム 座長：木原 勝 (徳島大学)・西田幹夫 (名城大学)
医療現場と直結した薬剤師養成教育を開始して 土屋浩一郎 (徳島大学)
臨床医からみた薬剤師への期待 平野正美 (名城大学)
臨床現場で学生は何を学んだか 加藤隆寛 (名城大学)
Roles of Clinical Preceptor in U.S.

Dr.R.P.Henderson (Samford Univ. AL USA)

総合討論 司会：高石喜久 (徳島大学薬学部学部長)

閉会の挨拶 川上 博 (徳島大学副学長)

意見交換会 (18:00-19:00 薬学部スタジオプラザ)

問い合わせ先 徳島大学薬学GP担当 菊石美也子 TEL: 088-633-7835 (直通), Fax: 088-633-7825

E-mail: yakugaku-gp@ph.tokushima-u.ac.jp URL: http://www.ph.tokushima-u.ac.jp/?&rf=750

※事前にFaxまたは電子メールで、シンポジウム参加を申し込み下さい。意見交換会参加は有料(3,000円)で承ります。